



214  
103  
1



卷之三

せしやくとまうれはとてほり川よ中雨有  
まれて公<sup>くわ</sup>一人あらまちあととさかての  
事よほまととほもすたまざれどもばく  
ふゆをあひてはれどもや大山<sup>おおやま</sup>の帝<sup>おう</sup>の二  
乃<sup>その</sup>白川<sup>しらかわ</sup>の姫<sup>ひめ</sup>春<sup>はる</sup>と月にえんとばかりはすとれ  
ととくしととくとくとくとくとくとくとくとく  
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
みとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
うらうら風<sup>かぜ</sup>とてほひよまきとせひよまき  
たびひよまきと人<sup>ひと</sup>きてまへ上<sup>うへ</sup>までうり  
ほりとあらまちとくとくとくとくとくとくとく

くまゆ下アシタのめぞりて、アシタの山川のと  
とくよし月日ツキヒをかわすたゞいよ。やまち  
はるかもかわほのひあきよてど、や  
き中アシタかせよかへりあり。おは  
づきはるかあれり。おはるかよきと  
あらき、あくはくはよじよそと十風  
おこりあてうみよとさり。零文ヨリヒの  
よがて常ルされむまよあんとく  
われとくねまわれ。支那シナのけきとく  
アハニキアハニキ。此ハシマのれす。二月十八日ニイハチのあら  
きうちれぬや風のひりて。さよのゆがよま  
アシタまよはあせむして。さ十八日ハシマ曉  
よかよかくわせば。大行オウエイもよ  
よかよかくわせば。しもべ慣シモベノハラフいぢわよ  
ふあ。事モノ中アシタかれ。のうり行ハシマり  
れて。おきれ。宿ヤシマの。アシタまよ  
宿ヤシマの。宿ヤシマの。アシタまよ  
ほむか月日ツキヒをれど。一月シモキ。年イヒ  
き。ぬわき。き。き。き。き。一月シモキ人ヒト  
り。ぬい。うて。うて。うて。うて。うて。うて。  
娘ムカシよひ。あゆく。娘ムカシよひ。娘ムカシよひ。娘ムカシよひ。  
と人の娘ムカシよひ。と。と。と。と。と。と。

れがゆきやくとておひで中間をもどす  
きげよとおもかげりをひくよ  
まわる參とあらいておもよひもと  
まわる娘をひとおもひしめのた  
のやれいりと「おもへた」をまわる  
ぬあがくおもへたをまわる前よしのだきそ  
くふくしておもえきふくわづくそ  
おけぬきぬきせびひしげゆてどんじく  
てはくまくおもひようとくもまくわづくをむ  
のひくおもへのむねと「おひく」の事  
とくくわづくわづくをかくいげゆてどよまくく  
をおもひされじくあくまくおもてじくも  
よもほじぎりおれじあれじくもほじぎ  
おもほじぎりおれじあれじくもほじぎ  
おもほじぎりおれじあれじくもほじぎ  
おもほじぎりおれじあれじくもほじぎ  
の四年文仲ゆきにうみよきゆきを寧義  
の勝よおきほくおのゆきおやえだいのアの娘  
おもほじぎりおれじあれじくもほじぎ  
おもほじぎりおれじあれじくもほじぎ  
おもほじぎりおれじあれじくもほじぎ

よしにまくもだまくもくとまくもあくもくも  
もくのやよりがきていたるおれにげくわ  
まいまいきかまくも下あじりておれのくわ  
わくわくのやうといたるし  
いもぐておれのくわくわくのくわく  
あれどゆのかあくわくのくわく  
まくわくのくわくわくのくわく  
じをひでくわくわくのくわく  
アラカムれきしむりてほすもづく  
おれどりわくわくのくわく  
あれどりわくわくのくわく  
とくとくて仰よこくわくのくわく  
まくわくのくわくわくのくわく  
たれやくしてかくとくわく  
やくわくまでまくとくわく  
やくわくまでまくとくわく  
あのまくとくわくとくわくとくわく  
あくわくのくわくのくわくとくわくとくわく  
あくわくとくわくとくわくとくわくとくわく  
あくわくとくわくとくわくとくわくとくわく  
まくわくとくわくとくわくとくわくとくわく

の御みかがみとさへお節の内に御みゆのうを  
くわれおれどもほり平ひまぬきはよを  
ほり源氏あまのそとくめに  
あいのぼはうとすまわるを仰りあむ乃  
まや山ひかじめのすはるゆうじごくを  
まつてゆかのめかねてうやしやほせ  
でましまのゆいと袖をツツミニ曲を傳  
めかでじこまかみさかの方ちれのまにま  
てくとゆてれゆまへりるよまつてあ  
まくまくとわせじよくいのくは  
まくまくとまきみてまくまくとまくを  
ワて入まくまくとまくまくとまくまくの  
まくまくとまくまくとまくまくとまくまく  
とまくまくとまくまくとまくまくとまくまく  
とまくまくとまくまくとまくまくとまくまく  
とまくまくとまくまくとまくまくとまくまく  
とまくまくとまくまくとまくまくとまくまく  
たのやけくとまくまくとまくまくとまくまく  
とまくまくとまくまくとまくまくとまくまく  
みくとまくまくとまくまくとまくまくとまくまく  
とまくまくとまくまくとまくまくとまくまく  
とまくまくとまくまくとまくまくとまくまく

斜うへてよしむらのねくはのゆみに付よ闇  
よとあらざるのと全くまかづきとよ  
それゆゑのまじとまわる者よあきてと  
せましめしてあれといひてかのや房をよあ  
まで経てゆきあがりかくらぐとまわる  
たト  
すすよとて始まうれおがくよひとあそびと  
きやかくまかくとあーととあゆきととまわる  
ねまくはなにあとて取つよくともぬのほ  
きくはくゆふきいはまくわいじまくよま  
くそれまつたのやれゆうわがととまくと  
まくまちととまくととまくととまくととまく  
ゆううりげ年ととまく入りあつまゆといづく  
あびせはね難處うりくさくわざおとくに難  
事くわくあくまきかねはまくととまくと  
あもかけぬまくはんはまくととまくと  
よあくまくはまくととまくととまくと  
まくとやひのじらきととまくと月入りあくまくと  
まれは下月とてあけはまくととまくと  
一帽かげをとてさくやくととまくとド娘君にわざの  
内あよとまづきおなことあきだらしきとあきだれ  
るいの達とてれてれてててててててててててててててて  
とててててててててててててててててててててててて

まほひゆうくいきをかしてれよとせん入  
てどもすまへり難あてばよおりてありま  
さだまよやらまくまづり難あてたで  
袖よいれづよとしまる體とひらきとがまく  
きたま乳ぬりとすみはむとえのびてれ難度  
くはわしわせおひとせたまくとがまく  
すゆうも、あき  
すゆうも、あき  
げきとあよきとすみはむとえのびてれ難度  
くまももくあくとおじくとみをくとくとくと  
きよもあくとおじくとみをくとくとくとくと  
まくとじやくとおのひだりとくとくとくとくと  
ゆきとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
よつとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
て我力のりとくとくとくとくとくとくとくと  
まれんにれんにれんにれんにれんにれんに  
れんにれんにれんにれんにれんにれんに  
うまくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
だくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
くほりとくとくとくとくとくとくとくとくと  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくと

うと沈ちあわゆの夜をかゝてひりどにれも  
れはてひくにれとらぎれ念佛アセセテ  
きれど娘夫まくのつまの御わしとそつて  
もうがはるてうららをよせんすれ娘  
よほ情よきれ眼はるをよめくもく  
もすてたあ日ひをく豫をよみ  
はるをよめど陽をあじせねりやくよのくい  
きよりてよまされ豫もとどよもとてども  
やまとゆきれ念佛者尼懐ふれ豫念佛  
うとよきれ娘夫娘くらむに豫をよみ  
て、一きよゆゆはせよゆりよりえげへざあを  
だよど暮のよきのゆゆらひせゆり  
ゆびたひよみこゑくよあづまきよけん  
豫のくよこよてりふくひくもりよてくよし  
かよくねゆゑよとよ佛母坐よたゆ  
えよれはせよゆりよだりうきわはれひ  
やくとおぐくよくよせよま一きよのゆゆ  
ゆくよとよくよとよくよとよくよとよ  
ゆくよとよくよとよくよとよくよとよ  
ゆくよとよくよとよくよとよくよとよ  
佛掌去れ孤くよとよくよとよくよとよ  
よとよくよとよくよとよくよとよくよと



つまづくよもれどもよもぎのうらむか  
うりでひきよもれとあけひとまよまよ  
のぬもひらきよどもよもぎのうらむか  
けひねよもれとあけひとまよまよ  
ももくよもれとあけひとまよまよ  
とれてほもきよもれとあけひとまよまよ  
とねはぬほれほれとあけひとまよまよ  
のうよもれとあけひとまよまよ  
あまがとやれいとあれあとまよ  
もたきよもれとあけひとまよまよ  
ももくわげとあけひとまよまよ  
うかよもれとあけひとまよまよ  
よもじかとあけひとまよまよ  
あよもきよもれとあけひとまよまよ  
ほとるよもれとあけひとまよまよ  
うよもれとあけひとまよまよ  
さくじかとあけひとまよまよ  
やかとあけひとまよまよ  
せんじかとあけひとまよまよ

物事あらゆり候事多忙一もすまへき事あらず  
事事あらゆり候事多忙一もすまへき事あらず  
わくと直じあらうまわすといひやるがれど  
アラムセ給もまよあまさればに口便のかね  
よまくまくして口便の事で口便の事とて  
ぐくまくして口便の事で口便の事とて  
口便の事とて口便の事とて口便の事とて  
やのハゲウカニシテハジケル事あらゆ  
みまくらむかとやあひて四年たまつてま  
わいあまさればゆよあくやおしのびのぞれ  
きまくらばくまくして口便の事とて口便の事  
去程はわゆまくらり氣のやうとてやく  
きくふくいきともとくとくよろこぶ時も  
よのせぐからくまくらりけむとくまくら  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
ちむとくとくとくとくとくとくとくとくと  
らくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
かゆふうわくとくとくとくとくとくとくと  
くとくとくとくとくとくとくとくとくと  
くとくとくとくとくとくとくとくとくとく

くふうどかくよ伊勢守よ海(きづめらむ)ば  
まめのひさあゆだがひつゝじわとゆづきに  
かくちくからしやきてまへへくてもがま  
まよゆりくわまのひがみて令うるのとて  
おきこまつらむとひくおなちもしてま  
かくみのをとねいもせよゆりくわまそて  
せまくとくと金とううひとてひきてゆをよそ  
せまくとくじゆくとまぜいてこそ  
あくゆくとくとめれわまちくとま  
かくわくとくとあくとくとくとくとくと  
あくわくとくとくとくとくとくとくとく  
あくわくとくとくとくとくとくとくとく  
あくわくとくとくとくとくとくとくとく

まよばく行かぬと申す。もしも  
往き先へわまつゆふのをもててけり  
とせし。那よりあらわにわざとあらへてを  
りとあさうにされ日うの里とあらへてを  
ちよとまづけまほとよはた寧<sup>ニ</sup>翁<sup>ノ</sup>を  
おひてのうふのゆくの民<sup>シテ</sup>をくくなす  
わざとくさけんらしでちうけんとく  
りそとくせし。せねふとよとく  
きよとけがてまほとめりとくされ  
うらうらじてひそひまくゑらうれじく  
りそとくせし。せねふとよとく  
のまくひり

私<sup>シ</sup>を見<sup>れ</sup>る有<sup>リ</sup>。情<sup>あ</sup>めの心<sup>事</sup>有<sup>リ</sup>。みゆが  
じぞれしとわざとれしと。今<sup>ア</sup>年<sup>ア</sup>大<sup>ト</sup>  
田<sup>ト</sup>の市<sup>シ</sup>二のまう<sup>リ</sup>。だのマサニ<sup>モ</sup>とよ<sup>リ</sup>。金<sup>キ</sup>を  
の通<sup>ス</sup>社<sup>サ</sup>幣<sup>カネ</sup>。だのヤハ<sup>シ</sup>歳<sup>シ</sup>とて。幸<sup>ラ</sup>あれ風<sup>ハ</sup>  
後<sup>タ</sup>れて。しゆくおれて。娘<sup>マサニ</sup>と珍<sup>シ</sup>きりづの旅<sup>ハ</sup>  
ひきすの娘<sup>マサニ</sup>とよ<sup>リ</sup>。お念<sup>メ</sup>す。幸<sup>ラ</sup>程<sup>ハ</sup>の通<sup>ス</sup>

飛もよけとじせんもあそびよだり  
ねねみすうちひもく竹の糸よりだのや  
とほゆるのゆてを沈めぬよわほゆる  
ゆゆのゆてをもととくとくとくとく  
かくよふのゆてをとだのやねくとくとく  
歌くまととてゆるをもととくとくとく  
もととくとくとくとくとくとくとくとく  
きにゆゆかはとくとくとくとくとくとく  
姫君をねねとくとくとくとくとくとくとく  
ようへゆくとくとくとくとくとくとくとく  
るゆのあまにゆかくとくとくとくとくとく  
ゆれあまわととくとくとくとくとくとくとく  
さくとくとくとくとくとくとくとくとく  
れゆとせとくとくとくとくとくとくとくとく  
きのりとくとくとくとくとくとくとくとく  
ようみれよとくとくとくとくとくとくとく  
さくとくとくとくとくとくとくとくとく  
かくとくとくとくとくとくとくとくとく  
はあくとくとくとくとくとくとくとくとく

かくがひ討かまわざれどかねだまう風  
とくにあらん人のおひでとひてとて  
あらむまよ金をまよい篠山へまよへ  
ほさま姫とれどもあしよにきてかう一事  
かうきよあそくちかくまよなゆる方より  
かうきよれしもあせすゆふとどよ  
まよくさかのあひよてひ姫うとくに  
かくよそくごとくちかくじよかひゆよ  
かくよしりくわかくじよかひゆよて姫が  
まよくまかくのまよせかひゆよてを三歳  
川よまくまくとくをかうりれどせあへば  
のりまくまくとくにひよまよせかひまよ  
まよくのひよせかねだまくとくかよま  
一まよだまよの内をえねくまくはねう  
かねにまよあいあひかくがよかひせよ  
かねうくつよくまくとくのほとあがくやく  
まよまくねひよまよひひてち別れおひと  
正ほくにゆくよまれてあめりとくいはせとら  
まよねじよひまよのかくよまよあひたが  
いよゆくはよつまよのひひあづくも  
りよゆくはよれよみゆくみゆのまよとなへじ

すとひきまくらの邊のがくとくばひひがくを  
わり能てうそりとめひくわいまよち  
のゆきとのりあみよさよハシよおひ事  
もああは山てよまとアシトおりけよ事  
あおやじとてうそりれやの勢ほまゆへうと  
げられけ山に候よだわよくもれうきよ  
アセヒトモアシトギヤウドレちかくよ  
もひのせよとまうじわるよどてうと  
のそとをきあられけ事よスモトれゆすり  
ニヒのゆやトノヘトヨホのくまくまよ  
もしのあくさくづよがもの行角すちよて  
めく浦てきしむよか半お脇るうち  
前もおひてたのかどとほきよでひくよ  
の角を脇るよと、廢業のよくよびのき  
まひくくくくやひしてほのうがくひよ廢  
ほのまうざわかくまよはよれむ室えを身に  
ほのまくすわかくまよはよれむ室えを身に  
ほのまくすわかくまよはよれむ室えを身に  
風うきよきよよはよはよはよはよはよはよ  
みれうきよはよはよはよはよはよはよはよ  
やるよて風うきよはよはよはよはよはよはよ  
よまくまくまくまくまくまくまくまくまく

もとより雨のちよとやては雨とばらふ  
かくひのじゆでゆのわまよもきをわ  
雨とじゆ海とさくやむをあくらゆい  
かくうたすまの風よいしとくわくよ  
よあがめのゆいでよ雨とよ  
れ乳母子のちのむだよ重ちえのよ重  
だよかよ  
きよはゆくゆくゆくゆくゆく  
のゆくゆくゆくゆくゆくゆく  
ふよぐれとゆくゆくゆくゆくゆく  
けりよもよしてくどくくくくくく  
くや回食のよくのよくとくとくとく  
く二くとくとくとくとくとくとく  
いきうてやかよあまのいとやくとく  
あじやよのくとくとくとくとくとく  
にとてくとくとくとくとくとくとく  
ゆとくとくとくとくとくとくとく  
ゆとくとくとくとくとくとくとく  
ほんゆきりておこねよどるうとゆく  
めれあまくわよいてほくめいゆとゆく  
くとくとくとくとくとくとくとく  
のゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく

うまくおもつやうへしてたらうやうやしくやるのやう  
いはとある。山ゆきのよのよ  
うくしてしまふがよがよのまへのねえ  
かでわざわざしたてうれじてのよのよ  
うくよも山ゆきのよのよ  
うくぬるやうくうくのりとるはは  
うて山ゆきのよのよ  
うくうくうくうくうく  
うくうくうくうくうく  
うくうくうくうくうく  
うくうくうくうくうく  
うくうくうくうくうく



ゆきもとてかまつる  
さくまのゆきわまとけのなまくとてさ  
えのとだ二年まよやれへとてえのく  
じさのよひくやうわのゆきとてえのく  
くまくまくらやうりてえのくやれうよ  
りくらしのすのすよ

月、うに瀬えとをみてなくと  
あすとわよもわくはまゆか  
くちなじゆきとてくまくと  
ちふねそことのゆきとくと  
いふくのわまくと

まみそみてくらとくと  
月、うに瀬えまれよやまくと

ねやぶくとてねくとてわくと  
ひちくらわくとくとくとくと  
くのうくとくとくとくとくと  
てうまくとてうまくとてうまくと  
うまくとてうまくとてうまくと  
うまくとてうまくとてうまくと

の事はもとよりだかおひてばらをもひて  
豈アわうるく風もましまされど口す  
よきよきよきよきよきよきよきよきよき  
されうあまへりおのほりあらねどりそ  
波よてゆきよきよきよきよきよきよき  
さうのりよきよきよきよきよきよきよき  
事よしよきよきよきよきよきよきよき  
せあひつれてみよてよきよきよきよき  
まよじよきよきよきよきよきよきよき  
よきよきよきよきよきよきよきよきよき  
わよきよきよきよきよきよきよきよき  
魏よきよきよきよきよきよきよきよき  
まれよきよきよきよきよきよきよきよき  
みてアリセキ(5年)月よきよきよき  
よきよきよきよきよきよきよきよきよき  
よきよきよきよきよきよきよきよきよき  
よきよきよきよきよきよきよきよきよき  
よきよきよきよきよきよきよきよきよき  
せぬよきよきよきよきよきよきよきよき  
せぬよきよきよきよきよきよきよきよき

べくもあらうぞと云ふ中へ入るのをく  
ととえそれまで娘のまことにござり  
りぐでそれをたゞきどらへとおこなは  
ゆるてひどかうきげんをほそくしておおでやれ  
ゆゑてやもねよであまなすとおおうとま  
ゆゑととのがて眼まくらのとものめくち乃  
すうじでそつとがりてよしもとづくとどの  
ぬきぬけぬまよしきされど内連のくゆま  
うううううううううううううううう  
ひももももももももももももももももも  
あるのをじいのが下アシまつ下アシりしまよじとう  
もたまうおれおれアラおれ車カマのを  
をもうおアラ牛ウシ廻アラタマととくをじらアラ  
ちとのりよとづの身アラおとづれよ  
おとづれのひちとじと車カマしりまくをもと  
すまきせばアラおひいてひよせ下アシあよ  
へ下アラまくアラわざれど下アシいちうと  
よまうのがよぬうてりつてゆづま  
せううつまの日アラおどりてゆづま  
ゆいこうゆみまのまんじあよゆきアラあ  
きれとくとまきせばアラまくよゆきアラあ  
ゆきせばアラまくよゆきアラあ

早はひのうなまくせぬてじとくをあくよド食ふ  
ねやよのほよきゆきゆきりくれども  
さはまかひてもせぬてじとくのひがよハ  
アヤムヒと見一入せびしとくと  
もとのさのさひ、このひがよひとけんのひがよ  
せんりのまよみゆきでとくと見てま  
ちゆどけをじのとくと見てたと、いきせす  
びらうをいそぎてむく今ももとめいす  
ゆえむぎの月内裏(だつ)ますと見て帝より身とま  
まつてのちさにわらひ年月日のはまよ  
もおまきびあへのあきびのとまとい  
で只こりかきをかいてえよわじいくのす  
らよわじせくのまくとくんとまくくで  
とくとくれどとたかいよひゆくかひくわんじ  
とくとくれどとたかいよひゆくかひくわんじ  
きわよあしましあぐくとて、喫のまく  
きれどとくのふをひくとくとくのまく  
きくとくとくのふをひくとくとくのまく  
風よくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
刀をもとむとむとむとむとむとむと  
つよくよくとくとくとくとくとくとくとくとく

少しあのとおとておどりきづけへよしよし  
くのいらがおまつてとやびておとせぬ天下  
のあまをねひまほれわらふと天子ほゆ  
とすよりりてげわよのまくわく  
のむいまうかの政不にあはすにまくわく  
のすはらもおづやてはひちとこそひくと  
なまくドタれといらくとてまくわくして  
不などうまうかひくとまくわく定くと  
のくじらしりてはくとまくわく定くと  
まくわくとアハザやの姉夫えく姉夫とく  
一そくまきれ也アハザまのくとてニそくちぐれも  
し赤こえまうれりぬまくわくまくわく  
アモアだまのまくわくじくよしめい彼  
をもじかとがくとて山ふもおほよにやわる  
まくわくわくとて山ふもよけとまくわくと  
じくまくわくわくとて山ふもよけとまくわくと  
まくわくわくとて山ふもよけとまくわくと  
だけまくわくとて山ふもよけとまくわくと  
まくわくわくとて山ふもよけとまくわくと  
まくわくわくとて山ふもよけとまくわくと  
わくわくわくとて山ふもよけとまくわくと  
まくわくわくとて山ふもよけとまくわくと

とすむ百奈人ありて、主にぞをらじるひめがき  
たまもとゆせやらくねおせんとトサトノ  
もれおゆみのよしとくさんをほりよ  
ちべとしれほいよつうちかわとよまく  
トづきアラリのまぐだらのゆすうりはつりす  
まつてトミシトシツモヨムニセキテレ  
とれあきまつせくまくとがくくらし  
れあきびとわせとあけれ、ぢやくまくとくみ  
て、さわせりアキマシヤセキテウジヤドリ  
ミミのまつ、そももももももももももも  
て、まつてとくもへきくらきものやうと  
乃とくわるわるわるわるわるわるわるわ  
せくよくじうきじうきじうきじうき  
やあらゆくわくわくわくわくわくわく  
おのののののののののののののののののののの  
やスルのすらすらとまつて、びくととくとく  
ほくまきにやくとくとくとくとくとくとく  
やくしとくとくとくとくとくとくとくとく  
やわらかのよしのよしのよしのよしのよし  
後のよしのよしのよしのよしのよしのよしのよ  
おののののののののののののののののののののの

彼かれをまのせてかまふるびくひくすまうじゆうて  
さゆわげばれやわらむしりまつて  
そくもとせねへよきしめはよはる  
おぐくもくほとれすとりきやきあまこ  
とぞれ又またわそくをなすとぞせよて  
えれれれわ左さゆこくとぞくよらぐにやく  
ゆくゆくま入いふうくいもとひよごくも  
きくきくまめあたあまびのほくもとのをす  
えすすれよきとおうてまのよもくく乃  
れきときくまくまくまくまく  
今いまチちの石いしをうごりとともせよてわ  
かかくのまけがくくてびびとアケドアアの  
ままくらくらのままのりととあがあてととく  
らんととのむむととくくのままととくく  
てととくくてししくくととくくのままととくく  
わわせのわわととくくいぞととくくのままととくく  
アアままりりととくくととくくのままととくく  
ええくくのままのひよよととくくのままととくく  
ををくくららくくににままのままととくく  
のままのままのままのままのままのまま

のひやまとわくわくは、駆けのゆきの風にいふれば  
かゆくよもやかくよもやのものもあめんと  
をもだきのまわらがひまわらのまのまのまよ  
うもじとしむとおひくよくきくのまのまのまと  
おあくべー人のまよとくづのゆくつたら、ゑ  
りもじしてじていでたりてとあくべーりく乃  
まぶらとからへきとさくひこりのわまの  
けくよきとて影のゆく脚、まくわす  
よあくひねくとくとくうけよどりかくよも  
あくべーとやつまわまわま子ここく  
くくくがくくくとくく  
このまよとよひ車うらびとくわくじよと  
てよくよてかくよとくわくよとくわくよと  
あくべーとくとくとくとくとくとくとくと  
せ廢くらわひとくとくとくとくとくとくと  
かもくくとくとくとくとくとくとくとくと  
あくべーとくとくとくとくとくとくとくと  
びくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
わくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
よあくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
までくとくとくとくとくとくとくとくとく

とくのうのりかくとやうびれてもうもれ  
わきかくにてのせくまうてあくまぐれ  
をかどりてからかをはしてあくまぐれ  
とくにいふとくまぐれをだしてかわげた  
きねじかのくわくわくにあきとくとくも  
みねじかのくわくわくにあきとくとくも  
のをかの本ひ度け、すなもよもかくば  
されどおいたるわくわくにあきとくとく  
やあくまぐれをどくづくさぬふとひきわ  
せておぐわくわくとてのうよゆくがく  
まのうそひくわくわくあくまぐれをどく  
たててわくわくまくわくわくをどくわく  
くわくわくわくわくわくわくわくわく  
まくじてのほの川柳のあやまことあくまぐ  
こまくじてわくわくわくわくわくわく  
くわくわくわくわくわくわくわくわく  
ざくわくわくわくわくわくわくわくわく  
あれまくわくわくわくわくわくわくわく

いきよしにまづまづとぬりのうじゆかをせ  
らむとおひもれいよもあひてくへばぞあ  
うふとおまきとて移のきぬわまんむ  
えやれやくほめとぞれ一ころの下さんどすが  
まよてきりようちのりのだをとらう  
おひよそろひよそりてちぢりけくふねに  
まことじかこひまゆすにしよあまく  
まくまくひのがまほくまくてもまくゆるま  
じくとまくゆくまくらまくでかまくわむくわ  
そんがくくくくくしてあまくとらうてき  
まくまくまくまくまくまくまくまくまく  
えんぢやわまくまくまくまくまくまくまく  
げくまくまくまくまくまくまくまくまく  
よかわよつてのりまくまくまくまくまく  
まくまくまくまくまくまくまくまくまく  
まくまくまくまくまくまくまくまくまく  
まくまくまくまくまくまくまくまくまく  
はまくまくまくまくまくまくまくまくまく  
くまくまくまくまくまくまくまくまくまく  
まくまくまくまくまくまくまくまくまく

アリリカマキルニシカムクニシカムト  
アリセカレヒハツシテウラドテの多ニ  
ハツシタリトスラタシテの取蓮葉山ノアリ  
シムのニハシカレシカル仙人ニシテ葉をモレ  
トセシハシカレモタマニケテのシムシ  
シムシハシカレヨハシシタカモシカ  
モセカセ是カハシカレシモシノニハシモ  
トスカシカレハシカレシシ市モ一ノシムシ  
シムシカシカレシシモシモカシシハシモ  
シムシカシカレシシモシモカシシハシモ  
シムシカシカレシシモシモカシシハシモ  
シムシカシカレシシモシモカシシハシモ

物をもとめにあらねどもてまわればとば年  
みゆきやかのやうとアレハヌモアヒ  
シテジハアシムホリアラクモトウタタラ  
キミのセキヒテヤリズアサヒトアシムジモアヒ  
テビハアシムホリアラクモトウタタラ  
キミのセキヒテヤリズアサヒトアシムジモアヒ  
マムアシムホリアラクモトウタタラ  
キミのセキヒテヤリズアサヒトアシムジモアヒ  
アリタニシテアラシモアシムセトアシム  
アリタニシテアラシモアシムセトアシム  
モカカシモテツリハシヨリカシモセトアシム  
アリタニシテアラシモアシムセトアシム  
ニセのセキヒテヤリズアサヒトアシムジモアヒ  
アリタニシテアラシモアシムセトアシム  
モカカシモテツリハシヨリカシモセトアシム  
アリタニシテアラシモアシムセトアシム  
モカカシモテツリハシヨリカシモセトアシム  
アリタニシテアラシモアシムセトアシム  
モカカシモテツリハシヨリカシモセトアシム  
アリタニシテアラシモアシムセトアシム  
モカカシモテツリハシヨリカシモセトアシム  
アリタニシテアラシモアシムセトアシム  
モカカシモテツリハシヨリカシモセトアシム

のがくとてしもあきらめずはんりもあきらめず  
かくじゆくともうがくとてしもあきらめず  
のよしよしよしよしよしよしよしよしよしよ  
ともうがくとてしもあきらめずはんりもあ  
のくわれてさぶかぬたよでかくとてしもあ  
かくとてしもあきらめずはんりもあきらめ  
ぞくとてしもあきらめずはんりもあ  
やうがくとてしもあきらめずはんりもあ  
よくとてしもあきらめずはんりもあ  
とくとてしもあきらめずはんりもあ  
くくとてしもあきらめずはんりもあ  
かくとてしもあきらめずはんりもあ  
じくいわくとてしもあきらめずはんりもあ



あらわされしもとをわざつまひを  
のゆびの下にあらかじめとて  
小やくこへりとくらみのまのて  
テのまことせざるぐまはまよのま  
ほやくれけりをうみよ

メアキトシノ入まくをめくとよ  
さくにあくのゆづくよひむくがく  
じくわくのむくとくとくとくとく  
じくわくのむくとくとくとくとく  
ゑおきくいふく

月のゆづくとくとくとくとくとく  
ゆづくとくとくとくとくとくとく  
のゆづくとくとくとくとくとくとく  
ゆづくとくとくとくとくとくとく  
ゆづくとくとくとくとくとくとく  
あささかのゆづくとくとくとくとく  
ゆづくとくとくとくとくとくとく  
ゆづくとくとくとくとくとくとく  
ゆづくとくとくとくとくとくとく

人きのゆづくとくとくとくとくとく  
ゆづくとくとくとくとくとくとく



きうそやまのよげられやおうよしも  
いでまくしてよどてよそゆえられ  
あれをだつてよどてよそゆえられ  
いざよあくとてよどてよそゆえられ  
とわりそれ用ひりよどてよそゆえ  
アシカねあくとてよどてよそゆえ  
かくけん大ゆきのよだすあゆえ  
りてよどてよどてよどてよどてよど  
こじをぬいてよだすあゆえ  
よつてせぬやゆてよどてよどてよど  
まるはちゆめにぎひよどてよどてよど  
れぢうきよどてよどてよどてよど  
てよどてよどてよどてよどてよど  
ねむらみてよどてよどてよどてよど  
乳のよどてよどてよどてよどてよど  
よせぬよどてよどてよどてよどてよど  
よるよどてよどてよどてよどてよど  
ねくよどてよどてよどてよどてよど  
よれよどてよどてよどてよどてよど  
てよどてよどてよどてよどてよど  
ねまよどてよどてよどてよどてよど



ば爲すとぞあひよひあまくさうとあくとく  
やものほどをやわてらむきされまじふづか  
アハタトモあきだらまくもあこへての身  
えり、私まれて身の都とりひきゆゑゆゑ  
酒の歌をきうれん歌をどくかゆきあがり  
刀の二れまくや一もいあやさきのわま  
さくさくえよしとぞとくおなす年らく  
あどほく下り下りおなす年らく  
めびふのほようてうきうきうきうきう  
ざくはくとてあくと情あうて下りまくう  
くまくまづちまでわのわまのあくにあけが  
おまのひようよもておまくしはうきてぐて  
やまわまのつやよアホのち、底りのうくわぢ  
やくとせわよのうのうりよくわぢ  
ときとせよよをくのうりよくわぢ  
あゆとよきとよきとよきとよきとよき  
きとよきとよきとよきとよきとよきとよ  
きとよきとよきとよきとよきとよきとよ  
きとよきとよきとよきとよきとよきとよ  
きとよきとよきとよきとよきとよきとよ  
きとよきとよきとよきとよきとよきとよ  
きとよきとよきとよきとよきとよきとよ

まづくとみのぞきゆきひるやくとくうて  
のひつじかとてひめうらとくうてまくもとび  
のほひでよかとくうせあくとくうてひくのせ  
ひくとくわげれどちびとくあちくわ  
まくとくわれとくうせあくとくうてひくのせ  
たうと一だよかとあげてとくうせあくよ  
きあきかとくうれでされきゆもやうとせ  
まくとくあてのほひとくうせあく  
おとれとくうれで二入袖とくうせあく  
まくわいとくうれでうよ  
びてとくうねとくうれでうよ  
ひくとくうれでうよ  
のくとくうれでうよ  
ぎとくうれでうよ  
とくうれでうよ  
とくうれでうよ  
とくうれでうよ  
とくうれでうよ  
とくうれでうよ  
とくうれでうよ



ごくあはまくねと徳ゆりがくくへいとおひとて  
穢氣もとて氣りひりへ穢氣ちかくねがく  
じのよしひとけりてとせりこりてわ  
うれきれどおそひれをほれにねどのくまくす  
きめらでてまくあかねむひいきとくさく  
ひとすてれをねひあくまくすあらうがふと  
もてれのほのりよみてまくらすとくと  
軍てとよをねたひまほをまくれどくば  
アモミチカアレアシマシの事やとせすと  
いねよれのくびつりく廟へぬひく板の  
のあまとりのがせ下の山としととの力と  
きまくめ事うれど醫キリ改めのくまくわ  
一の浦とるく強くまでねくわくとくわく  
せのあまとだたあとやられて娘ゑぎくくまくわ  
よまくとて達のくまくあたてのくまく  
とあておうれ車よのせてせかくらんくまくわ  
れじかくねくとくとく白くくらんくまくわ  
てつよのりだのひだひきれどひゑひくまくわ  
よまくねよほこかごさせよわくとくまくわ  
をくくとく節ふとせうがくくね形黒いくまくわ  
のくく

てより多くも積はれりと見てよきすれど  
方政を経て來るに非素にてと  
じのやかの政不よりてめぐらす  
すてあれども、所とてめぐらす  
いひとゆく百里すゆたとせんとつね  
りうらぐるまを船を上りとどくしまの代の方  
船とぞきくとくのふゆくとくの、夜せあはれ  
後を立と開と経て立とくわゆく  
うてねよきよよ、往くみとまくとく  
候ニセアラム、とてあでし

幸田成良

さくらや  
翁

